

博士論文要旨

論文題名：鎌倉幕府儀礼成立史の研究

立命館大学大学院文学研究科
人文学専攻博士課程後期課程

氏名 なめかわ あつこ 滑川 敦子

本博士論文は、12世紀末期における鎌倉幕府儀礼の成立について考察するものである。従来の鎌倉幕府儀礼研究は、毎年正月三が日に行われた垢飯儀礼を主軸として進められ個別的研究に終始していたために、総括的な鎌倉幕府儀礼研究に取り組みられることはなかった。また先行研究では、『吾妻鏡』における関係記事の収集・分析作業に執心していたために、鎌倉幕府儀礼がいかに成立したか論じられることはなかった。以上の問題点を踏まえて、本論では『吾妻鏡』の収集・分析に留まらない包括的な鎌倉幕府儀礼研究を以下の通り実践した。

第1章では、鎌倉幕府正月行事の成立・展開について考察した。治承・寿永の内乱下において東国武士との間に平氏追討という政治課題を共有し、主従関係を構築するなかで正月行事は成立したが、平時への移行にあたって従来の行事が変容し、新たな行事が付加されることで幕府正月行事は展開していった。その変遷の背景には、現実の幕府政治があり、それと連動して成立・発展していく鎌倉幕府正月行事の様相を明らかにした。

第2章では、鎌倉幕府行列の成立にともない、「随兵」と称される行列構成員の創出過程を解明した。「随兵」は本来個々の配下（郎等）を意味したが、公家行列にその供奉が制度化していくなかで、行列上の役割としての「随兵」が成立・定着した。鎌倉幕府行列において「随兵」は、公家行列同様に行列上の役割として成立したものの、個々の実力・実績を重視する東国武士社会に対応して編成され、軍事的な様相を呈した点に大きな特色があり、幕府行列の「随兵」は、現実の幕府政治と不可分の関係を構築して成立したことを明らかにした。

第3章では、鎌倉幕府侍所の成立過程について、その要職にあった和田義盛・梶原景時の活動を中心に考察した。幕府侍所は当初、家政機関としての侍所や侍所別当・所司ではなく、東国武士を統率・管理するための「侍」と「侍別当・所司」として確立しており、職位的な差異はなくむしろ並立的なものであった。戦時から平時に移行し、幕府が王朝国家の軍事権門として認められるなか、義盛・景時も幕府御家人の統率者として位置づけられ、「侍別当・所司」として担ってきた両者の職務が、家政機関である侍所別当・所司の職務として結びつけられて成立したことを明らかにした。

付論では、12世紀から13世紀の日本・高麗において、ほぼ同時期に発生した武人政権の比較的研究に取り組み、何故爾後の日本で武人政権（武家政権）が継続・定着していくかを考察した。その大きな要因として、両武人政権が関与する国政の範囲が影響していたと指摘した。

以上の考察から、鎌倉幕府儀礼は公家儀礼の様式を取り入れながらも、幕府が東国に誕生した政権であるために、東国武士社会の論理や幕府の実情を勘案しながら成立・発展し、かつ幕府の政治的展開（源氏将軍期・摂家将軍期・皇族将軍期）に対応しながら絶えず改変され整備されていったことを明らかにした。

Abstract of Doctoral Thesis

Title: The research about the origin of the ceremony by Kamakura Shogunate

Doctoral Program in Humanities
Graduate School of Letters
Ritsumeikan University

なめかわ あつこ

NAMEKAWA Atsuko

This document is about the origin of the ceremony by Kamakura Shogunate.

First, I tried to research the formation of the new years' ceremony by Kamakura Shogunate. When Yoritomo Minamoto fought against Heike Family, so he formed it to pray the victory for his army and make the strong relationship between him and his servants. But the fight was over, so he and his successors changed the patterns of the new years' ceremony. That is why it is influenced by the actual policy of the Kamakura Shogunate.

Second, I tried to research the creation of "zuihyo" (warriors who play a part in guard of a parade) in the parade by Kamakura Shogunate. At first, "zuihyo" is about the domestic servants, but in the noble parade, "zuihyo" becomes a part in guard of a parade. In Kamakura Shogunate, "zuihyo" is not only a part in guard of a parade, but also a part for the servants from Kanto provinces which set a high value on military abilities and results. So the Kamakura Shogunates' parade is formed by the actual policies of the Kamakura Shogunate.

Third, I tried to research the creation of "samuraidokoro" (a system to regulate the servants of Kamakura Shogunate). At first, "samuraidokoro" is not one of the domestic system, but temporal system to regulate servants which fight the Heike Family. But the battle was over, it became the domestic system to manage the ceremony of the Kamakura Shogunate. Because the ceremony is almost organized by the servants of the Kamakura Shogunate, "samuraidokoro" is useful to regulate them.

As a result, the formation the ceremony by the Kamakura Shogunate is influenced by the society of Kanto provinces, real policies of Kamakura Shogunate.